

令和2年度 東国文化自由研究レポート



研究テーマ

三角縁神兽鏡と  
群馬の古墳

提出日 令和2年8月24日



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

|年 |組 25番

氏名 廣島潤一郎

# はじめに

僕がこのテーマにしたきっかけは、小学三年生の時に「古代の鏡を作ろう」という夏休みの教室で作った鏡(画)と、東国文化に出でくる三角縁神兽鏡に似ていたので、興味を持ったからです。

(古代の鏡の成分)

銅7:金易3

径5cm

この研究レポートの目的は2つあります。  
1つ目は、ヤマト王権と群馬が三角縁神兽鏡を通じてどのように結びついてきたか。2つ目は三角縁神兽鏡の持つ独特なデザインや意味について考えることです。



## (調べ方)

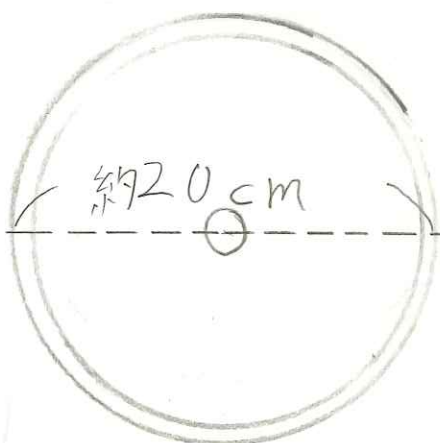
- ・出土古墳7か所の基本的情報を調べる
- ・出土した三角縁神兽鏡の情報を集めて分析する
- ・古代の鏡についての全般的な情報を調べる

## 三角縁神兽鏡とは

径20cmを超える大型鏡で縁の形が三角形になっている。主に前期古墳に副葬された鏡。近畿を中心に400枚以上出土している。

『魏志倭人伝』の中に、卑弥呼が魏から鏡百枚をもらったという記述があり、これが三角縁神兽鏡と考えられている。特に、形の特徴や刻まれた年号から、魏の時代の鏡にほぼ間違いのないからだ。さらにその後、ヤマト王権がこの鏡を地方の有力豪族に分け与え、その勢力下に取り込んでいたという説がある。古代国家の形成に強く関係する考古資料としても注目されている。

## 三角縁神兽鏡の作



三角の縁



謎の神兽

神人と神兽が複数描かれている。

# 鏡とは？

## 鏡の起源

鏡が最初に登場したのは紀元前2800年頃の古代エジプトだった。  
東アジアでは最古が紀元前2200年頃の中国西北部である。  
日本への渡来は弥生時代中期から確認される。  
鏡に映るという現象は、古来極めて神秘的なものとしてとらえられたので、実用品というよりは祭祀や呪術的なものとして使われた。

中国では戦国時代後期、官人が身だしなみを整えるための道具として急速に普及が進んだ。また、鏡の大量副葬が行われた。  
前漢武帝の時期(紀元前2世紀の後半)、最盛期、中国の周辺地域にまで銅鏡が波及した。

## 日本における銅鏡

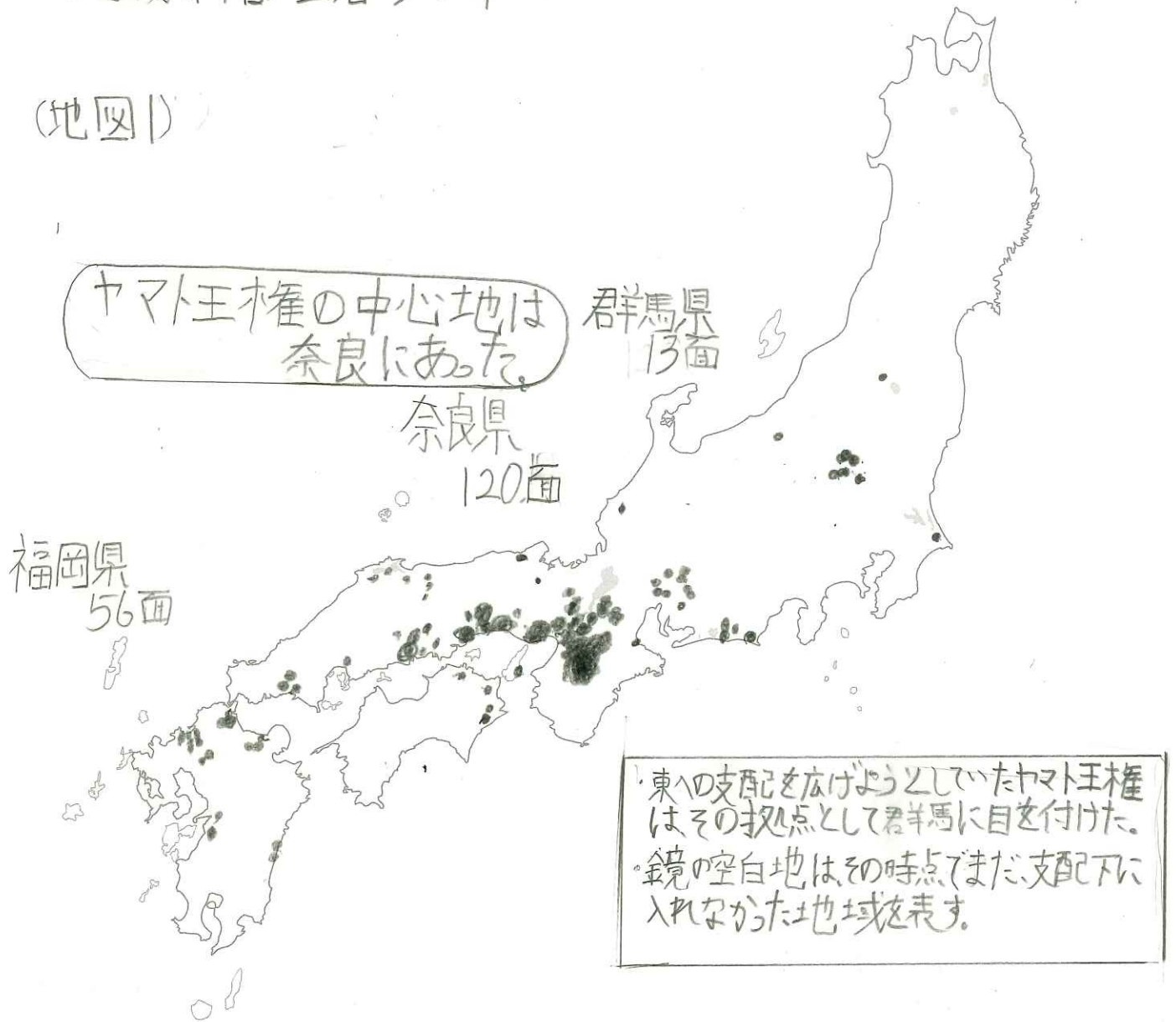
弥生時代 紀元前2世紀頃に朝鮮半島から中国北西部の多鈕金鏡(たちゅうきょ)が伝わる。紀元前1世紀頃に前漢金鏡が伝わる。すぐに国産金鏡を作り始める。金鏡は宝物として大事にされ、権力者や司祭者などが所有した。そして、王の墓に金鏡を副葬するという風習が始まった。

古墳時代 3世紀半ば前方後円墳が出現する。これらはヤマト王権が日本を統一していく中で各地の豪族に許可した形式であると考えられている。古墳時代前期には、金鏡の大量副葬が見られるようになった。

また、弥生後期から古墳時代にかけて寒冷期にあたり、作物が多く実らなかったため、人々は新しい土地を求めて場所を移動したり争いごとを起こしたりした。その解決策として、鏡を使った。例えば、魔よけの道具として、神の依り代として、祈りをささげた山の祭祀場からも多く出土していた。また、金鏡は王や首長の権威や権力を示す威信財としての役割を十分果たしていた。

# 日本の三角縁神兽鏡の分布

(地図)



日本の三角縁神兽鏡の分布は、近畿地方を中心に、広がっている。西は瀬戸内海から九州地方、島根県出雲、東海地方、関東地方に及びその数は400ほどといわれている。(最北は福島県会津) 関東地方(東国)では、18面の三角縁神兽鏡が見つかり、その内の13面が君羊馬から出土している。

## 考察

- ・近畿地方奈良に集中しているため、一旦奈良に金鏡が集まった。
- ・主に沿岸部と地域の拠点となる港付所にあるすでに水軍の技術を持ち活用していた。(鏡は船で運ばれたのではないか)

君羊馬は東国の中心地であった。

# 群馬の三角縁神兽鏡が出土した古墳の分布

群馬では現在のところ、7つの古墳から13面の三角縁神兽鏡が見つかっている。近畿地方にあるヤマト王権が、南から利根川をのぼって群馬までたどりついた。そのころ群馬は稲作がたんと発達してきて、小さな村が大きくなり、各地でリーダーが現れた。そのリーダーのお墓が古墳になった。ヤマト王権から与えられた鏡は刀や勾玉などと共に埋められた。

(地図2)



## 考察

- ・大きな川のそばにある古墳が見つかった。
- ・群馬の南東部にツタがある。
- ・それぞれの地区に分散している。

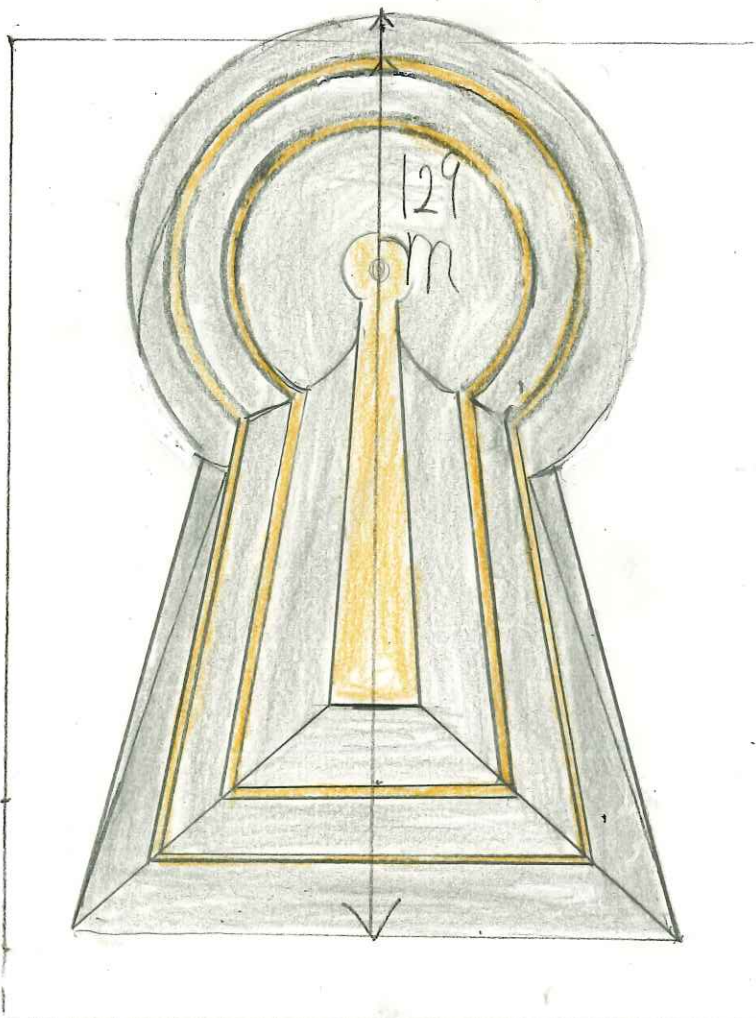
各地区の権力者はヤマト王権と結びついて水田稲作を発展させていった。

※ ⑥については、碓氷峠を越えてきた可能性がある。

群馬の主な権力者はヤマト王権に従った。

# 前橋天神山古墳

旧利根川(玄瀬川)の産の上に築いた、当時東国最大の古墳。



所在地…前橋市広瀬町27-7

前方後円墳

全長129m 高さ16m

4世紀前半の築造

出土品…墳丘土師器

埋葬施設: 刀、鏡など

東日本では一番古い前方後円墳で、その時期においては最も充実した副葬品を有す。ヤマト王権の王墓によく似た墳丘。毛野国(基礎礎)を築いた首長の墳墓と思われる。

副葬品は5面の鏡のうち三角縁神兽鏡が2面(奈良の桜井茶臼古墳、天理黒塚古墳と同范鏡\*)。

当時は珍しかった鉄製の武器や工具が出土。3段築成で葺石・埴輪(円筒・家形・水鳥形など)を備える。周囲には2重の掘がめぐり古墳の北東と西側では陪塚が見つかっている。同じ規格で前方後円墳の前橋八幡山古墳に後続して造られた東日本の古墳築造は前方後方墳から前方後円墳に変化する傾向があり、それはヤマト王権の成立に係わっている。4世紀後半の築造。

①五神四兽犬鏡(桜井茶臼山と黒塚の同型)

②四神四兽犬鏡(宮崎県と鳥取県に同型が出土)

①



②

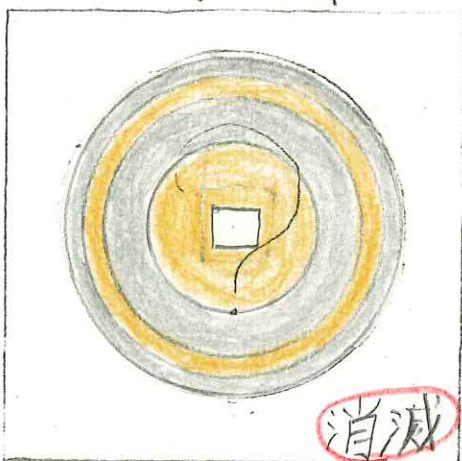


## 一言句説明

同范鏡…元となる鑄型(范)をくり返し使用する手法  
や元となる鑄型から原型を作成し原型からコピーした鏡。

# 柴崎蟹沢古墳

井野川台地上にあつた古墳。卑弥呼の鏡として一躍有名になつた。



所在地 高山崎市柴崎町蟹沢228-1-2, 2230-付近  
 ・円墳?  
 ・大きさ 不明  
 ・出土品 墳丘: 土師器  
 埋葬施設: 刀、鏡など

出土した鏡4面のうち2面が三角縁神獣鏡。うち1面は「正始元年(元年、240年)金文あり。卑弥呼が魏に使臣出した翌年である。魏志倭人伝に伝えられる卑弥呼に贈与した鏡100枚」といわれている。墳形は小規模な円墳だと思われる。



銘) 正始元年 陳是作鏡 自有経述  
 本自州師 杜地命出 寿如金石  
 保子宜孫

訳) 「(正)始元年、陳是(氏)が鏡を作った。私自身の経歴があるので迷へる。元、私は楊州の鏡師であつたが、地を閉ざされ出ずるを命ずるを命じられた。金石の如く長生きする。子を保ち子孫は繁栄する。

「正始元年は計3面出土している。2010年に木安井茶臼山で出土した石皮片がこれとの該当部分と合致したことが確認された。

# 川井稻荷山古墳

(鳥川沿いにならぶ古墳密集地区の1つ)



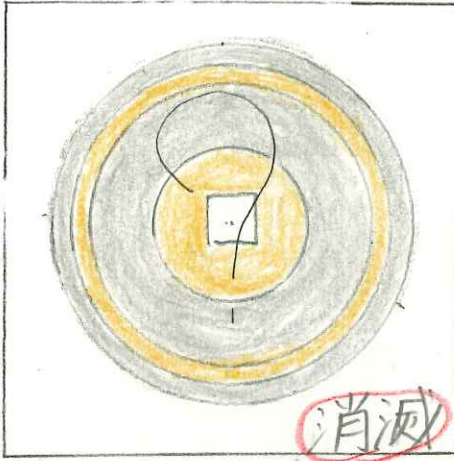
所在地 佐波郡群玉村町大字川井1998-1  
 ・前方後円墳かも?  
 ・全長約40m  
 ・出土品 墳丘: 埴輪  
 埋葬施設: 刀、鏡など

芝根7号墳と記されている。4世紀と7世紀後半の2度にわたり築かれたためずらしい古墳。このような中型古墳でも出土しているところにヤマト王権がいかに上毛の国を重視していたかがうかがえる。



# 頼母子古墳

利根川支流石田川流域. 伝承で2面出土しているが  
言詳細は不明



所在地...太田市牛沢町464外

- 円墳?
- 直径?m 高さ5m
- 出土品...墳丘: 刀, 鏡

⑤吾作金名帯三神五獣鏡  
(写真: 城山一号墳, 千葉)と  
橋井大塚山(京都)と同範

朝子塚古墳(全長123mの前方後円墳)西側に所在した  
と伝わる古墳。2面の三角縁神獣鏡が出土。

墳丘期10年(明治43年)に土砂

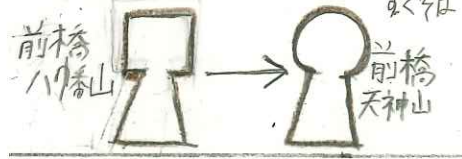
**消滅**

採取のため破壊された。戸籍の記録や出土品から、朝子塚  
古墳のつ前の首長墓とされている。埋葬施設は粘土郭と  
みられている。4世紀代の築造。



## 前方後方墳から前方後円墳への変化

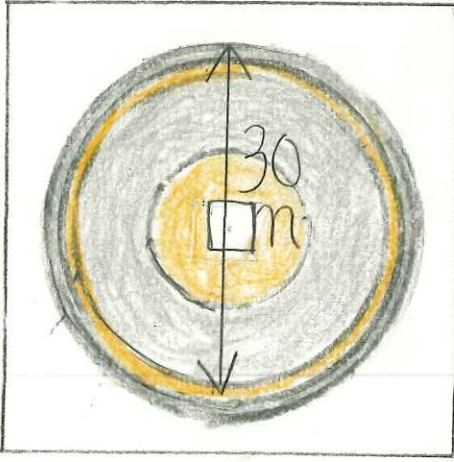
4世紀中ごろ



頼母子古墳は  
朝子塚のすぐ  
そばにあった。

# 赤城塚古墳

渡良瀬川のはより。栃木や埼玉も勢力範囲が  
この地区で最上級の古墳。



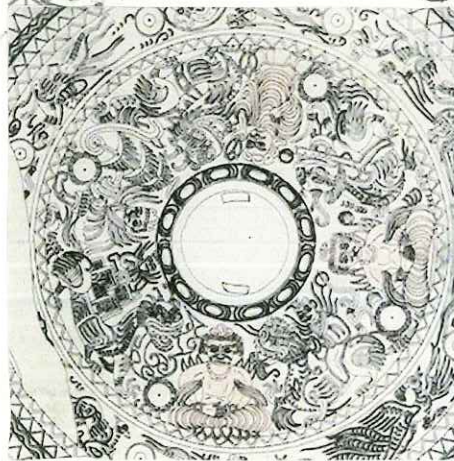
所在地...邑楽郡板倉町大字西岡宇赤地塚1554, 1555

- 円墳
- 直径30m
- 出土品...埋葬施設: 刀, 鏡など

別名: 西岡神社古墳。江戸時代, 社殿建立の際に  
墳頂部から三角縁神獣鏡や刀, 剣などが出土。4世紀  
代の築造

⑥ 獣紋帯三仏三神四獣  
鏡の直径は22cm 周りには  
三体の仏像と山人そして  
四獣が描かれている。

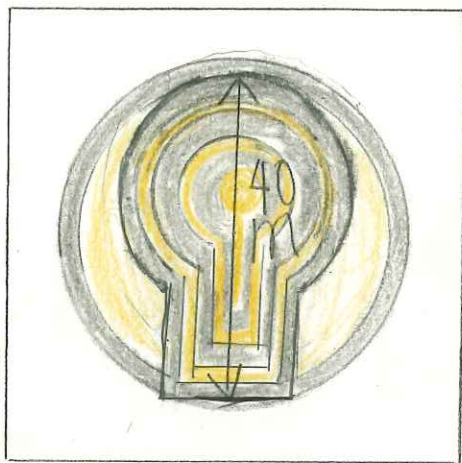
⑦ デザインをイラストに書きおこ  
したもの。(板倉町文化資料  
館蔵)





# 北山茶臼山古墳

金剛川を下る西毛地域  
最古級の古墳



所在地：北甘泉郡客員部村大字南後箇字北山99  
 ・円墳・4世紀の築造  
 ・直径約40m 高さ5m  
 ・出土品：金鏡、刀など  
 ・木柩式古墳の可能性あり  
 ・木柩式とは前方後円墳の一種で、前方部を狭くした形

⑧

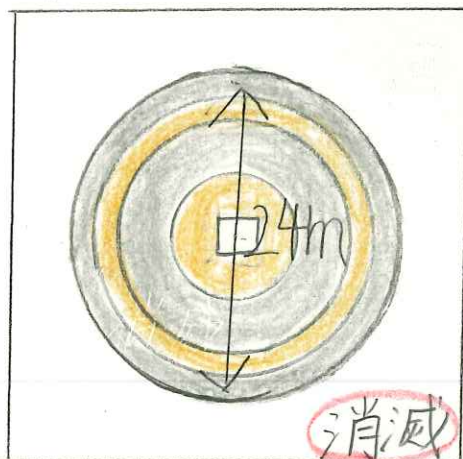
南後箇地区と高瀬地区の境界、通称北山の最高所に立地。葺石・埴輪が確認されている。1894(明治27)年に発掘され、墳頂部の粘土椁から三角縁神獸大鏡や玉類、石釧、刀剣などが出土した。4世紀代の築造

⑨画象紋帯青龍虎鏡。備前車塚(岡山)、大岩山(滋賀)と同範



# 神田・三本木古墳

神流川沿い。神田三本木地区古墳群の一つ。最大の3面出土。



所在地：藤岡市神田字塚間1322-2 ⑨  
 ・円墳  
 ・直径約24m 高さ5m  
 ・出土品：周堀：土師器

神田・三本木古墳群の中の浅間神社古墳が古墳時代前期と推定される。

⑨陳氏作車馬神獸鏡。備前車塚(岡山)と藤崎6号墳(写真・福岡)と同範。

⑩張氏作銘帯四神四獸鏡。椿井大塚山(京都)奥3号墳(写真・香川)と同範

○金鏡の同範関係について…主に奈良や京都岡山の鏡が大量に出土した古墳との同範が認められる。この関係性について政治的意図があるとの見方もある。



⑩

# まとめ

## 出土古墳の状況

- 各古墳から1〜3面出土している。
- 前方後円墳2基(基は可能性)、円墳5(基はオクター貝式の可能性)消滅している。
- 古墳時代前期から出土している。古墳群の中でも最上級と推定されるものが多い。
- 4基が消滅しているため正確なことはいえないが、被葬者はリーダーか祭示(己取)に仕切る人であると思われる。
- 所在が分からななものもいくつかあった。
- 鏡の配布数は勢力の強さやヤマト政権との特別な関係性が影響していると思われる。

## 三角縁神獣鏡のデザインについて

- 三角縁神獣鏡のデザインは様々で、年代や漢字の有無、中国製か国産かなどを含めるとその分類は簡単ではない。
- その時代の他の副葬品である勾玉・刀剣・埴輪などとは比べると作りにみが薄い工芸品なので、当時の人たちにとっては見たこともない絵柄(龍・虎・車・神様・仏様など)だったと思う。
- その頃の日本人には漢字が読めたのだろうか。
- 蟹沢古墳の卑弥呼の鏡には本物かどうかはさておき、少なくとも、その鏡の価値を知っているものに渡したのだと思う。
- 同は鏡の関連性は全く無関係とは思えない。いろいろ想像出来ておもしろい。

# 感想と考え

この研究レポートを書くにあたって、資料がとて少なかつたので、構成を考えるのが非常に難しかったです。ヤマト王権は武力で服従させるのではなく、鏡の持つ「霊力」や「権威」を見せつけて、怖がらせ、従わせた。前橋天神山古墳に見られる、前方後方墳から前方後円墳への変化は交渉がスムーズに進んだことになると思う。簡単に従わない地域もあったと思うが、古代君羊馬のリーダーたちは時代の変化にいち早く気が付き、君羊馬をさらに発展させるためヤマト政権と手を組む道を選んだ。鏡に感じたのは神へのおそれもあったであろうが、大陸との歴然とした差からくる焦りや、未知なるものへの憧れ。「倭国は一つにならないと危ない」。そう思ったのかもしれない。東国のリーダーは時代の先駆者でもあったのだ。

## 参考文献

「群馬県古墳総覧」2017年5月 群馬県教育委員会

「古墳時代毛野の実像」右島和夫、若狭徹、内田敏行

「群馬の古墳物語-東国の古墳と文化を探る-上下巻」右島和夫

「古鏡のみみ」新井小吾

太田市、高山崎市、富岡市、藤岡市、前橋市、板倉町、玉村町、市町村HPより

写真:

①②③④⑤ 群馬県立歴史博物館にて撮影

その他については本文中に注釈